

## 3歳児健診を受けられたかたへの調査協力をお願い

この調査は、厚生労働省から補助金を得て、子育てに伴う「親」の支援について検討しているものです。

健診を利用してお子様の様子を把握することで、保護者の子育ての負担に気がつき、早い段階で支援ができないうかと考えています。

そのため3歳児健診を受けたかたを対象に健診の感想について、あてはまる項目をチェックしていただければと思います。

これらの結果は今後の子育て支援の改善などに役立てたいと考えております。質問は全部記入するのに、おおよそ五分から十分程度かかります。結果は単純に数字で処理をし、調査票については責任を持って処分させていただきます。もちろん、調査に協力いただいた個人の回答のみを問題にしたり、公表したりすることはいたしません。

今後のよりよい健診のために、ご協力いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

ご不明な点などがありましたら、研究者代表の田中までご連絡ください。

研究者代表

田中康雄（北海道大学大学院教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター）

連絡先

電話/FAX：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇（代表）

今日の健診を受けての感想を、記入例にならって、5つの選択肢の中から選んでください。

<記入例>

例えば、「1万円は貴重である」という質問に「とてもそうだ」と答える場合には、下のよう

1万円は貴重である	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							

ここからが質問です。5つの選択肢の中で、自分の気持ちに一番近いものを選んでください

3歳健診に満足している	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							
お子さんの育ちに関して保健師から説明がなされた	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							
子育てに関して保健師から説明がなされた	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							
今後のお子さんへの対応について保健師から説明がなされた	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							
健診を受けて、子育てに関するストレスが軽減した	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							
健診を受けて、ご自身に関わるストレスが軽減した	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							

次のページへ続く

健診を受けて、お子さんの育ちについての理解が深まった	<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">とても そうだ</td> <td style="padding: 5px;">そうだ</td> <td style="padding: 5px;">どちらでも ない</td> <td style="padding: 5px;">そうではない</td> <td style="padding: 5px;">全然そうで はない</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-left: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-top: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない					
とても そうだ	そうだ	どちらでも ない	そうではない	全然そうで はない							

健診の内容を家族や近しい人に伝えたい	<p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">とてもそうだ</span> <span style="margin-right: 20px;">そうだ</span> <span style="margin-right: 20px;">どちらでもない</span> <span style="margin-right: 20px;">そうではない</span> <span>全然そうではない</span> </p>
健診の内容を実際に子育てに役立 てるのは難しいと思う	<p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">とてもそうだ</span> <span style="margin-right: 20px;">そうだ</span> <span style="margin-right: 20px;">どちらでもない</span> <span style="margin-right: 20px;">そうではない</span> <span>全然そうではない</span> </p>

以下の欄には、今日の健診に関して、感想や要望を自由にお書き下さい

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。この用紙は返信用封筒に入れてポストに投函していただきますようお願いいたします（送料はかかりません）

北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究審査結果通知書

平成20年6月13日

田中康雄 殿

北海道大学大学院  
 教育学研究院長 青木 紀  
 (公印省略)

平成20年度研究倫理委員会(6月12日開催)において審査の結果、下記のとおり判定されましたので、通知いたします。

記

1. 受付番号	08-12番
2. 研究課題	発育に困難を抱える保護者を支援することのできる健診評価尺度(保護者自己記入式調査票)の開発に関する研究
3. 研究責任者	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター 教授 田中康雄
4. 判定	<input checked="" type="checkbox"/> 承認    . <input type="checkbox"/> 条件付承認    . <input type="checkbox"/> 不承認    . <input type="checkbox"/> 非該当
条件付承認, 不承認, 非該当の理由	

北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究審査申請書

平成 20 年 05 月 27 日

北海道大学大学院教育学研究院長 殿

所 属 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター

申請者

氏 名 田中 康雄



北海道大学大学院教育学研究院における研究倫理委員会内規第 7 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

1. 研究課題名	養育に困難を抱える保護者を支援することのできる健診評価尺度（保護者自己記入式調査票）の開発に関する研究
2. 研究期間	平成20年06月15日 ～ 平成22年03月31日（予定）
3. 研究責任者	所 属 <u>教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター</u> 氏 名 <u>田中康雄</u>
4. 共同研究者	氏名（所属） 金井優実子（教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター） 久藤孝幸（教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター） 内田雅志（教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター）
5. 研究の概要（実施場所、所要時間についても記入のこと。）	別紙 1
6. 対象者（予定）の内容（人数、年齢、性別、職業等）	別紙 1

7. 調査・研究方法及び成果の利用にかかわって、基本的人権が問題となる局面への配慮  
①対象者の身体への侵襲を伴うもの（観血的侵襲、飲食・吸引などが条件として伴うもの）

該当無し

②対象者の身体への物理的負荷を加えるもの（運動負荷、温度負荷、一定空間での拘束、一定時間の拘束など）

該当無し

③その他、人としての尊厳が問題になりそうなもの（対象者を裸にしたり、屈辱的な姿勢をとることを求めたりしての観察。対象者が子どもであったり、調査者と異性である場合、成果の利用に関して基本的人権に関わるものへの配慮など）

十分な配慮を行う。

また協力者に対しては、8で述べる方法で、説明と同意を得る。

8. 対象者に理解を求め、同意を得る方法（次の各項のいずれかを○でかこみ、あわせて説明の具体的内容を記すこと。）

1) 対象者に理解を求める方法

① 対象者に書面で説明する。（書面を添付すること。）

2 対象者に口頭で説明する。（説明の具体的内容を添付すること。）

2) 対象者の同意を得る方法

① 各人の署名入りの同意書を保管する。（署名前の同意書を添付すること。）

2 各人の同意の署名が記された調査票を保管すること。（調査票を添付すること。）

3 同意は得るが署名は求めない。（署名を求めない具体的理由を記すこと。）

〔対象者が未成年者、成年で十分な判断力がない場合又は意疎のない場合、その他対象者に調査・研究の本意を説明できない場合などは、その対処を記すこと。〕

別紙2

9. その他

長期間の調査研究であるため、適宜必要に応じた追加申請を行う予定である。

備考：審査申請書の記載に関しては、次の点に留意すること。

1. 各項目の記載は、できるだけ具体的かつ詳細に行うこと。

2. 研究計画書があれば、それを添付することをもって項目5, 6, 7, 8に代えることができる。

## 別紙 1

### 研究の概要

#### 研究課題名

養育に困難を抱える保護者を支援することのできる健診評価尺度（保護者自己記入式調査票）の開発に関する研究

#### 研究の概要

本研究は、軽度発達障児の発達支援を目指すものである。

これは、文部科学省特別教育研究経費（平成19年～22年度）による軽度発達障害児・者に対する生涯教育支援プログラムの開発による課題を含んでいる。さらに厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）（平成20年～22年度）による課題を含む。

本研究の目的は、健診事業において、養育上の困難さを強く抱える保護者を支えるという視点に立つことのできる実用可能な健診評価尺度（保護者自己記入式調査票）を開発することである。

#### 研究実施場所

健診会場そのものが実施場所であるため、現在道内3箇所、および道外2箇所の保健センターを検討している。

子どもの様子と保護者の子育ての精神的負担を検討することで、早い段階での子育て支援を目指すため、健診の場に来られる保護者に子どもの状況を尋ねるアンケート調査を行う。これ自体で子どもの障害を判定するものではなく、あくまでも子どもの様子と保護者のメンタルヘルスに注目している。また、実際の健診データを重ね検討することはしない。

施設職員とは、テレビ会議システムというインターネット回線で北大子ども発達臨床研究センターと意見交換などのやりとりを行う場合もある。

#### 対象者

各センターの3歳児健診に訪れる養育者を対象にしている。月1回程度開催されるが、訪れる数は、地域によってばらつきがある。

## 別紙2

### 説明と同意に関する方法

- 1) 本調査の目的, 方法およびその活用意義と危険性について説明する。
- 2) 記載していただくアンケートは, 15分程度であることを説明する。
- 3) 調査の協力においては, 説明と同意を徹底し, 強制はせず任意の参加とする。
- 4) 説明後, 同意された場合はアンケートに記載していただくことで, 同意を得たと判断する。
- 5) 記載途中でも, 中止の申し出が在る場合は, その意思に従う。
- 6) 倫理委員会の許可を得ていることを説明する。
- 7) 研究で得られた結果は, 集合的な統計量の場合も, 事例的に検討を行う場合も, 個人や組織が同定されるようなことのないよう, すべて匿名で扱い, 学術的目的にのみ使用する。
- 8) データすべての管理は, 研究者が責任をもって厳重に行う。

# 平成 21 年度成果報告

(平成 21 年度報告書抜粋)

### C-3 平成 21 年度成果

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金  
障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)  
総括研究報告書

養育に困難を抱える保護者を支援することのできる健診評価尺度  
(保護者自己記入式調査票)の開発に関する研究(2)

研究代表者 田中康雄

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授)

#### 研究要旨

本研究は、健診事業において養育上の困難さを強く抱える保護者を支えるという視点に立つことのできる実用可能な健康診査(以下健診)ツール「保護者自己記入式調査票」を開発することである。

本研究の動機は、乳幼児健診で発達障害を検出する精度の高い健診ツールや5歳児健診の実施といった、障害を早期発見しようとする動きが強まる一方で、養育者の健診前後の心理的支援についての議論は不十分ではないだろうかという気づきによる。

初年度の研究調査結果からは、

①健診の回数や対象者数、専門職を含めた役割分担、事後フォローの有無、連携先、などにより、健診で行う支援とその後の支援、また保健師に動き方や役割まで自治体ごとで大きく異なる：サービスの提供の格差

②「早期発見」が周囲から強く求められる中、保健師は「発見」への重圧と養育者の「発見される」心的負担に向き合うことに大きく悩んでいる：保健師のメンタル危機

③子どもの発達特性に限らず、養育者支援の必要性が年々高まる中、誰が何をどのように支援していくのかということ地域性を生かして改めて考えていかなければならない：親支援の必然性  
という3点が明らかになった。

すなわち、保健師も養育者の不安や心労へのケアを積極的に行いたいことが明らかとなり、われわれの仮説は一定の支持を得た。その一方で、ある程度明確さを伴う障害の有無とは別に、それぞれの養育者の抱える日常の問題に、保健師は個々の『気づき』から支援を構築していることも明らかになった。

そのために、われわれは、保健師の気づき・判断を重視しつつ、その Sensitivity を理論的に補完するようなエビデンスベースの調査票を作成することが重要であると判断した。

今年度は、養育者のストレスを検出するチェックシートを以下の6項目に分けて作成し、調査票とした。

- ①子どもの発達に関わるストレス
- ②子育てに関わるストレス
- ③養育者自身のメンタルヘルスの状況

④子育て環境に関わるストレス

⑤健診受診の際のストレス

⑥不適切な養育に関わるストレス

さらに、保健師に

①子どもとの関わりに関する情報

②相談や支援の経験に関する情報

③経済状況についての情報

④健診時の保護者と保健師の関係に関する質問

⑤健診の結果

⑥今後の対応

という 6 項目の情報を記入してもらい、初年度にヒアリング調査の協力を得た全国 15 箇所の自治体で調査を行った。

北海道大学教育学研究院における倫理委員会の承認を得た上で、実際には、個々の同意を持って実施するため、原則として調査スタッフが、各自治体に赴き、健診会場で待機、時に説明対応をした。さらに、希望される自治体を中心に、その自治体に限定した結果を報告させていただき、同時にミニ研修会を開催し、前述したような保健師のメンタル危機への対応も行った。

現在統計処理中であるが、中間点での考察として、初年度の①サービスの提供の格差、②保健師のメンタル危機、③親支援の必然性、という 3 つの課題を解決する可能性がこのツールにあるように思われた。

地域によって、子どもの状態やストレスのカットオフ値に違いが認められたという結果であるが、実は、これこそが、現実の子育て環境と養育者と子どもの関係性を地域・文化的に補完していることと理解できよう。そして、その差違と地域性は保健師の Sensitivity と連動する可能性がある。すなわち、従来の地域差という視点からの「一貫したモデル的支援方法の構築の難しさ」は、保健師の土着の Sensitivity により、実は解決していたともいえ、このツールを活用することで、その地域別の支援の有用性を証明することが出来るかもしれない。同時に結果から導き出された支援の方向性は、保健師の思いと重なることや、自信ない判断を強化することで結果的に、日々の保健師の Sensitivity を高め、理論武装することに繋がる可能性が示唆された。これは、「③親支援の必然性」に直面した「②保健師のメンタル危機」を解決させる力をもたらすと思われる。さらに、現状から紡ぎ出された支援を検討していくなかで、優先順位と本当に必要な地域支援のアイテムが浮上する可能性もあろう。それは、「①サービスの提供の格差」を現実的に軽減することへ繋がると思われる。つまり、その地域で実現可能な支援モデルが構築できる。

さらに、従来の「障害」発見ツールとの大きな違いは、この健診ツールがストレングスモデルに依拠している点である。養育者のストレス状況が明確になり、さらに保健師からの日常レベルの情報から、生活状況が予測され、どういった状況下で養育が成り立っているかを、明らかにすることで、問題点と、この養育状況にあるストレングスを明らかにすることができる。弱点だけに注目してそこを改善するだけでなく、個々にある強さに気づき、そこを敬い尊び、認めることで、養育者の有能感は効能感が高まり、養育の関係性を主体的によりよくすることに期待できる。

- 平成 22 年度は、①今年度の全結果を統計的に検討し、保護者自己記入式調査票の決定版を作成、  
②各自治体で結果検討とミニ研修会を行い、その有効性について確認  
③22 年度の追跡調査を可能とする自治体と連動し、縦断的な有効性を検討  
という 3 つの行う予定である。

なお、最終的には、本研究は、調査表の試用マニュアルや事例集を公表していきたいが、影響力の大きなものであると理解しており、最低 3 年以上の縦断的検討を行うべきであろうと考え、さらに研究助成を申請し、実施自治体を全国に展開し、実施事例を収集、養育者の追跡調査を実施したい。そのような大規模調査の結果から、健診ツールの試用マニュアルおよび事例集の作成することを最終目標としたい。

## 研究結果

自治体が公表されると、参加された養育者や子どもが特定される可能性があるため、個人情報 は明瞭にならない操作を加えて結果の一部を報告する。

### 1. 質問紙の内容について

今年度は質問紙を作成するために、昨年度の予備調査の内容を元に、質問項目について精査し、以下の表1の内容から構成されている自己記入式の健診評価尺度を作成した。

表1

#### 保護者用質問紙内容

番号	内容	主な質問内容
01~08	基本情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診児の情報</li> <li>記入者の情報</li> <li>家族構成</li> <li>居住期間</li> <li>保育所等利用の有無</li> <li>育児教室等利用の有無</li> </ul>
09~13	記入者の思考・性格の傾向把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>自罰・他罰傾向</li> <li>問題解決の方法</li> <li>易被支援性</li> <li>易気分転換性</li> </ul>
14~52	養育者の子育て不安の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの過活動傾向・過緊張傾向へのストレス</li> <li>子育て不安</li> <li>健診の受診不安</li> <li>子育て環境への不安</li> <li>子育ての際の適切・不適切な関わり</li> </ul>

質問番号の01から08までは健診を受診した子どもと質問紙の記入者の情報について尋ねている。回答方式は直接回答を記入するか、もしくは選択肢から当てはまる回答を選択する形式である。01から08までの詳細な内容は表2に示した通りである。

表2

#### 01~08の詳細な内容

番号	質問の内容
01	受診児の性別
02	記入者の属性・年齢
03	地域の居住期間
04	介護などを必要とする同居者の有無
05	家族構成
06	保育所などの利用の有無
07	出産前の育児教室などの利用の有無
08	出産後の育児教室などの利用の有無

主な内容は健診受診児の情報、記入者の情報、家族構成、居住期間、保育所などの利用の有無、育児教室などの利用の有無についてである。06、07、08は外部の機関や活動への参加状況と子育てへの不安の関連の有無を確認するための質問である。

質問番号の09から13までは記入者の行動の特徴や考え方の傾向について、7件法で尋ねる質問となっている。09から13までの詳細な内容は表3に示した通りである。

表3

#### 09から13の詳細な内容

番号	質問の内容
09	悪いことが起きたときの感じ方の傾向
10	問題解決の傾向
11	援助の受けやすさ
12	気分転換の容易さ
13	他人の言動の影響度について

これらの質問は、記入者の思考や感じ方の傾向を踏まえることにより、この後の質問への回答傾向を把握することを目的としている。

例えば、支援を必要とすることを表に出すことが容易である保護者の回答結果と、表に出に

くい保護者の回答結果には、異なる傾向があることが予想される。こうした点について把握することなく、質問紙の結果を解釈した場合には、支援の必要さを表に出しにくい保護者を見落とした支援体制になってしまう危険性があるといえる。こうした点を防ぐために、09 から 13 の質問を設定している。

質問番号の 14 から 52 までは保護者がストレスを感じる子どもの行動や、子育てへの不安感について尋ねている。回答方法は当てはまると感じた者に対して回答欄に○印を記入する形式である。

14 から 52 までの詳細な内容は表 4 に示した通りである。

表 4

14 から 52 の詳細な内容

番号	分類	質問の内容
15、17、18 19、20、21	A1	子どもの過活動傾向への保護者の不安感
14、16 22、23	A2	子どもの過緊張傾向への保護者の不安感
24、31、33 36、41、42	B	子育てへの不安感
27、28、30 32、34、35 40、43、44	C	健診への不安を尋ねる質問
25、26、29 37、38、39	D	子育てを取り巻く環境、地域資源への質問
45、46	E	子どもとの不適切な関わりの有無
47、48、49 50、51、52	F	子どもとの良い関わりの有無

14 から 23 までは保護者が子どもの行動をどう感じているのかについて尋ねる項目である。これらの項目は、厚生労働科学研究費補助金で行われた「発達障害（広汎性発達障害、ADHD、LD

等）に係わる実態把握と効果的な発達支援手法の開発に関する研究（主任研究者：市川宏伸）」にて実施された養育者が抱えている子育てにおけるストレス調査の結果を参考に作成した。このストレス調査は発達支援センターを利用している保護者を対象にストレスと感じる子どもの行動について調査したものである。この調査の結果、子どもの過活動的な 6 つの行動と、過緊張的な 4 つの行動が特に保護者にとってストレスであることが明らかとなった。

これらの項目には発達の偏りを検出するためのスクリーニングの意味はなく、保護者がストレスと感じる子どもの行動を尋ねた質問である。子どもの発達障害の発見が目的ではなく、それを大変と感じる保護者をフォローすることを目的としている。

24 から 52 までは、保護者の様々な不安感について確認する項目となっている。これらの項目は平成 20 年度に行った予備調査の結果、フォローの有無によって回答状況に有意な差が見られた項目を参照し、内容を一部改変したものである。また 45 から 52 までは既存の質問紙の内容などを参照しながら、新たに今年度付け加えた項目である。

今回の調査では、保護者の回答の他に、事後指導など主に保護者を担当した保健師に対して、保健師の感じた保護者の印象と健診の結果について、以下の表 5 の内容から構成されている質問紙を作成した。質問項目は、前年度に実施した各自治体での保健師へのヒアリングを参考にして、統計解析の専門家と検討し、作成した。

表 5

## 保健師用質問紙内容

質問番号	内容	主な質問内容
53～54	健診時の保護者の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の問診中の様子</li> <li>保護者の子どもへの関心</li> </ul>
55～57	保護者の状況について	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別相談の有無</li> <li>生活保護などの支援</li> <li>保健師と保護者の関係性</li> </ul>
58	健診の結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常なし</li> <li>精密検査の有無</li> <li>経過観察の有無</li> <li>指導の有無</li> <li>発達障害、虐待の疑い</li> <li>専門機関で対応済</li> </ul>
59	健診後の対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> <li>電話、訪問</li> <li>来所時に指導、相談</li> <li>育児教室など推薦</li> <li>発達相談</li> <li>他機関との連携</li> </ul>

53 と 54 は保護者と子どもとの関わりについて、保健師の印象を 7 件法で尋ねた質問である。55 は相談や支援の経験に関する情報を尋ねた質問である。56 は経済状況についての情報を尋ねており、57 は健診時の保護者と主に担当をした保健師の関係についての質問である。

58 は結果について尋ねた質問である。選択肢の中の精密検査は医療機関などでの処置と判断された場合を想定している。経過観察は、健診後も引き続いて様子を確認する場合を想定している。指導は健診の当日、もしくは日を改めて保護者に対して能動的な働きかけを実施することを想定している。発達障害と虐待の疑いについては、実際の診断や公の判断ではなく、健診の場でどう判断したかを基準としている。専門機関で対応済は、すでに問題に対して何らかの

取り組みが健診前になされている場合、あるいは以前の乳幼児健診等を契機に支援を受けている場合などを想定している。

59 は対応に関する情報である。ここでの指導とは能動的な働きかけ、相談は保護者からの希望を想定している。また育児教室などの推薦は実際に利用したかについてではなく、推薦したかどうかについて想定している。他機関との連携は、どういった連携を健診で薦めたのかについて想定している。55 から 59 までの質問の回答は、当てはまるものに○印を記入する形式となっている。

## 2. データの回収状況

乳幼児健診において、養育上の困難さを抱える養育者を支えることが出来る健診ツールとして「自己記入式健康評価尺度」を開発するため、今年度は昨年引き続き協力自治体を対象に実際に試作版を実施した。倫理面の配慮や協力自治体に関する概略は、平成 20 年度の総括研究報告書「養育に困難を抱える保護者を支援することのできる健康評価尺度（保護者自己記入式調査表）の開発に関する研究」を参考にされたい。昨年度は、協力自治体全てに北大スタッフが訪問しアンケート調査とともにヒアリングを行い、今年度は試作版の実施と希望された協力自治体へ報告会を行っている。試作版の実施は一部地域に関しては年間の健診回数が少ないため、今後も継続して実施予定であり、報告会も同じく継続予定である。また、報告会は実施済みの 2ヶ所では、約 3 時間の内容で今回のプロジェクトの説明、調査状況に関する報告や進捗状況などについて報告した。（参考資料）

今回の試作版の実施は、自治体ごとの健診の状況に合わせて行っているが、その多くは自治体が健診対象者に問診票を郵送する際に我々の質問紙（参考資料）も同封し、養育者に記入を

依頼した。そして健診当日に封筒を渡し養育者自身に封入してもらい回収した。個人情報保護のため封筒を利用しているが、その後保健師の質問紙（参考資料）と照合するため、通し番号をつけるようにしている。保健師は健診中に可能な限り親子の行動観察を行い、過去の相談歴や今回の健診の結果等を合わせてカンファレンス中、または後に記入を依頼した。また、北大スタッフがカンファレンスに参加しているところもある。以下、協力自治体ごとの調査状況を示す。質問項目は以下の番号と対応する。

- ①人口
- ②年健診回数
- ③スタッフ訪問回数
- ④調査回数
- ⑤受診率(受診者数／受診予定者数)
- ⑥保護者回収率(保護者回収数／受診者数)
- ⑦保健師回収数(保健師回収数／受診者数)
- ⑧その他特記事項

#### 自治体 A

- ①110000 人
- ②24 回/年
- ③1 回
- ④2 回
- ⑤103.2%
- ⑥56.9%
- ⑦56.9%
- ⑧2 月、3 月に 4 回実施予定

#### 自治体 B

- ①230000 人
- ②36 回/年
- ③3 回
- ④3 回
- ⑤95.0%

⑥80.3%

⑦80.3%

⑧

#### 自治体 C

- ①70000 人
- ②24 回/年
- ③4 回
- ④4 回
- ⑤79.3%
- ⑥89.2%
- ⑦89.2%
- ⑧

#### 自治体 D

- ①64000 人
- ②18 回/年
- ③4 回
- ④3 回
- ⑤100.0%
- ⑥99.0%
- ⑦99.0%
- ⑧

#### 自治体 E

- ①424000 人
- ②60 回/年
- ③1 回
- ④3 回
- ⑤87.6%
- ⑥80.1%
- ⑦100.0%
- ⑧

自治体 F

- ①6000 人
- ②3 回/年
- ③1 回
- ④2 回
- ⑤95.7%
- ⑥100.0%
- ⑦100.0%
- ⑧

自治体 I

- ①15000 人
- ②6 回/年
- ③1 回
- ④2 回
- ⑤81.5%
- ⑥100.0%
- ⑦100.0%
- ⑧

自治体 G

- ①5000 人
- ②3 回/年
- ③1 回
- ④1 回
- ⑤85.7%
- ⑥100.0%
- ⑦100.0%
- ⑧2 月に 1 回実施予定

自治体 J

- ①37000 人
- ②20 回/年
- ③2 回
- ④2 回
- ⑤77.4%
- ⑥95.8%
- ⑦100.0%
- ⑧3 月に 2 回実施予定(他地区分含)

自治体 H

- ①38000 人
- ②12 回/年
- ③1 回
- ④1 回
- ⑤100.0%
- ⑥92.3%
- ⑦100.0%
- ⑧2 月に 1 回実施予定

自治体 K

- ①26000 人
- ②9 回/年
- ③2 回
- ④2 回
- ⑤76.0%
- ⑥97.4%
- ⑦100.0%
- ⑧

自治体 L

- ①22000 人
- ②6 回/年
- ③2 回
- ④2 回
- ⑤102.3%
- ⑥97.7%
- ⑦100.0%
- ⑧

自治体 O

- ①49000 人
- ②12 回/年
- ③3 回
- ④3 回
- ⑤101.0%
- ⑥98.1%
- ⑦97.1%
- ⑧

自治体 M

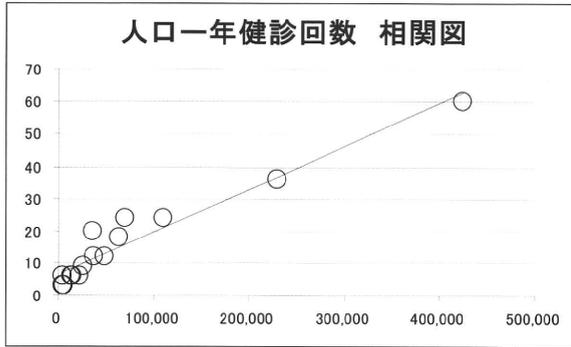
- ①14000 人
- ②6 回/年
- ③3 回
- ④3 回
- ⑤66.7%
- ⑥98.4%
- ⑦98.4%
- ⑧

今年度の協力自治体数は 15 地域あるため、その規模も人口 5000 人～424000 人と幅広く、また健診回数も年に 3 回～60 回と様々である。健診回数そのものは人口に対する割合で比較するとほぼ一定の割合である。また、受診率が 66.7%～103%と幅広いのは、今回の調査の多くが秋から冬にかけて行われたため、季節性インフルエンザ及び新型インフルエンザ等の影響も考えられる。

自治体 N

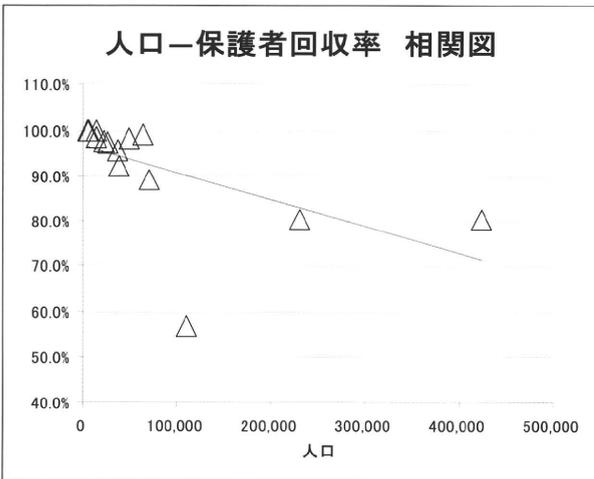
- ①5000 人
- ②6 回/年
- ③1 回
- ④2 回
- ⑤83.3%
- ⑥100.0%
- ⑦100.0%
- ⑧

表 6



保護者回収率は保健師による声かけなどの協力により、平均して 88.6%と高く、さらに小～中規模の自治体の回収率が高かった。しかし大規模な都市ほど回収率が低く、今回の調査内容の性格上、未回収分に支援の必要性の見逃しが予測されるなど、今後の検討課題も認められた。

表 7



### 3. 現時点でのデータの概要

#### <質問紙の調査結果>

ここでは平成 21 年度末までに終了した 960 名のデータの概要について提示し、現時点で明らかになった点について報告したい。

表 8 と図 1 は調査協力者の主たる担当である保健師が記入した、健診の結果の内訳である。ここでは質問 58 で A1 の回答だったものをフォローなし、A1 以外の回答だったものを要フォローと区分して集計している。なお、A2 から O までの個別の回答の分析は、全ての調査が終了後に、ベイジアンネットワークを用いた分析にて実施する予定である。

この集計の結果から、全体の 36.8%が何らかのフォローが必要であると判断されたことが明らかとなった。なおこれ以降の分析で言及する、要フォローとフォローなしはこの区分を参照している。

表 8

#### 健診の結果

		要フォロー			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	要フォロー	353	36.8	37.1	37.1
	フォローなし	599	62.4	62.9	100.0
	合計	952	99.2	100.0	
欠損値	システム欠	8	.8		
合計		960	100.0		

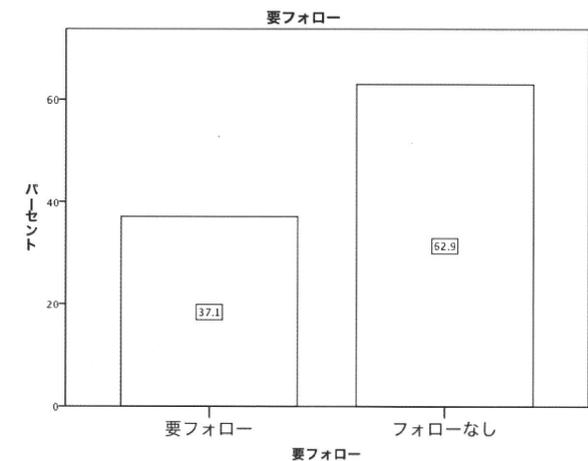


図 1 健診の結果

表 9 と図 2 は調査協力者の所属自治体の内訳である。最も調査協力者が多かったのは自治体 E の 141 名であり、最も少なかったのは自治体 N の 11 名である。

表 9

調査協力者の所属自治体

		都市名			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自治体 F	22	2.3	2.3	2.3
	自治体 N	11	1.1	1.1	3.4
	自治体 G	13	1.4	1.4	4.8
	自治体 J	29	3.0	3.0	7.8
	自治体 A	112	11.7	11.7	19.5
	自治体 L	43	4.5	4.5	24.0
	自治体 H	53	5.5	5.5	29.5
	自治体 K	37	3.9	3.9	33.3
	自治体 B	128	13.3	13.3	46.7
	自治体 E	141	14.7	14.7	61.4
	自治体 I	53	5.5	5.5	66.9
	自治体 M	60	6.3	6.3	73.1
	自治体 C	59	6.1	6.1	79.3
	自治体 O	100	10.4	10.4	89.7
	自治体 D	99	10.3	10.3	100.0
	合計		960	100.0	100.0

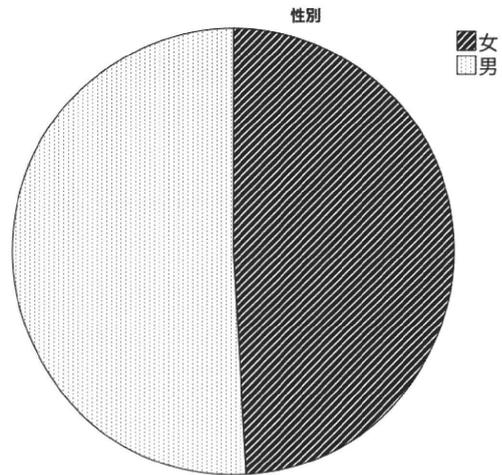


図 3 健診受診児の性別

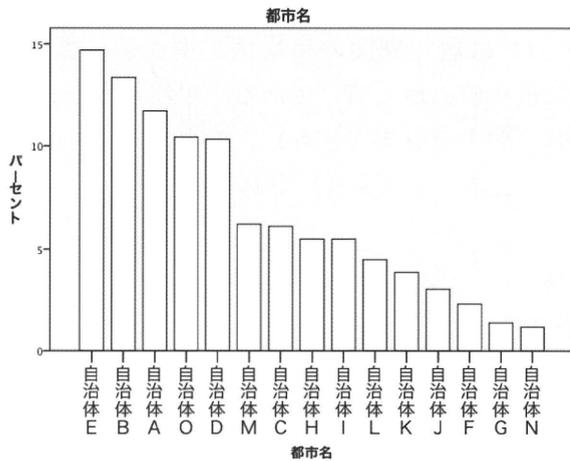


図 2 調査協力者の所属自治体

表 10 と図 3 は健診受診児の性別の内訳である。男女比はおおよそ 50%であった。

表 10

健診受診児の性別

		性別			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	女	463	48.2	49.0	49.0
	男	481	50.1	51.0	100.0
	合計	944	98.3	100.0	
欠損値	99	16	1.7		
合計		960	100.0		

表 11 と図 4 は質問紙記入者の立場の内訳である。全体の 95.9%が母親で、それ以外の記入者は 3.0%であった。

表 11

質問紙記入者の立場

		記入者			
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	その他	2	.2	.2	.2
	父方祖父	1	.1	.1	.3
	母方祖母	3	.3	.3	.6
	父	22	2.3	2.3	3.0
	母	921	95.9	97.0	100.0
	合計	949	98.9	100.0	
欠損値	99	11	1.1		
合計		960	100.0		

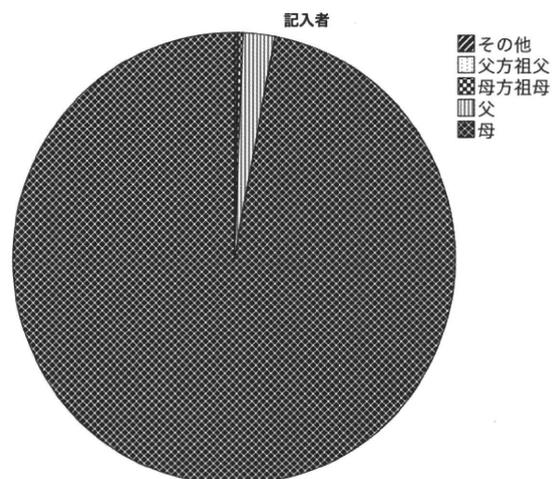


図 4 質問紙記入者の立場